

# 2014年 年間テーマ 「達人コーチが備える力」

## ①「5周年記念セミナー」

5周年記念セミナー「毎日が達人  
コーチ あなたのコーチング力を  
診断」と題して、

**日本コーチ協会理事（2014年時）**  
の**平野圭子氏**に登壇いただき、世  
界トップレベルコーチによるコー  
チング診断術に学び、参加者が取  
り組むべきポイントを明らかにし  
ました。



## ②達人コーチが備える力

2014年の年間テーマを「達人  
コーチが備える力」と  
して、**コーチングのスキル**  
に着目した例会を実施しま  
した。

## ③例会参加者が平均20名超

記念セミナー含む年間例会の  
全参加者数が214名、  
平均23.7名の参加となり、  
2013年から引き続き平均参  
加者数が20名を超えました。

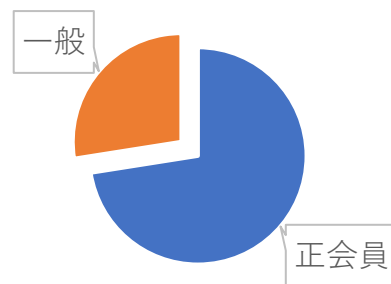


## 【数字で見る活動】

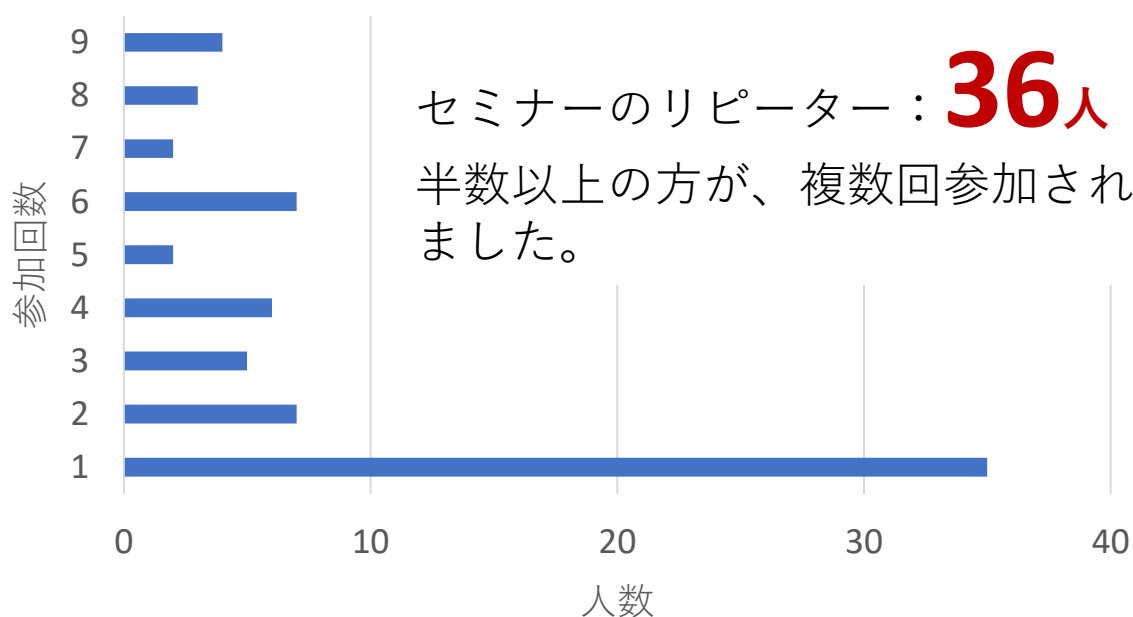
年間**9**回セミナーを実施。

延べ**214**名が参加。

参加者の内訳は右記。



2014年末時点での正会員数は**42**名



### 参加者の声(アンケート結果より、一部編集して掲載)

- ・気づきがあり充実したセミナーでした。参加型のセミナーなのでわかりやすいです。
- ・グループでの話し合いは明日からの行動に直結です。実践したいと思います。
- ・難しく考えていた問題を自分の出来ることがあることに気づきました。



## 年間テーマ『達人コーチが備える力』

あなたはコーチです。コーチは、クライアントが叶えたい未来を実現するために、クライアントとともに歩む人です。そして、クライアントの未来は、クライアントが考え、行動することで得られます。コーチングは、クライアントが今そして未来をどのように生きるのかを決める時間です。

あなたが、学びたいこと、コーチとして備えたい力、より充実させたい力は何でしょうか？

1年間を通して「達人コーチが備える力」を学び、クライアントの未来に貢献しましょう。

月	テーマ	内容
1月 (1/26)	ファウンデーション(基盤)を確立する力	コーチとクライアントの関係性の基盤のひとつは、クライアントの「主体性」です。これなしにはコーチングは機能しません。クライアントの「主体性」の確立のためコーチに何ができるのか、共に考えましょう。
2月 (2/23)	コミュニケーションタイプを理解する力	人はそれぞれ違います。100人の人がいれば100通りの物事の受け取り方があり、相手の受け取りやすいかたちでメッセージを伝える必要があります。4つのタイプ(コントローラー、プロモーター、サポーター、アナライザー)に対するコーチングの方法について理解を深めましょう。
3月 (3/23)	信頼関係を築く力	クライアントのものの見方、学び方、個人としての存在に対して敬意を払い、安全で安心して話ができる協力的な関係を継続的に築いていく為のコーチのあり方を学んでいきます。
5月 (5/25)	傾聴する力	コーチがクライアントの真の声を本当に「聴く」ことができれば、自然とクライアントの中に気づきが起こり、目標達成に向けて前進し始めます。コーチの必須項目である、全神経を集中して「傾聴する力」を身につけ、クライアントの理解を深めましょう。
6月 (6/22)	質問する力	人は、目標達成に向けて楽しい時も苦しい時も、視界が狭くなります。その時、オープンな質問をされると、視界が広がります。「難しい」「できない」という「決めつけ」や「思い込み」にも気づけます。クライアントの気づきを促す「効果的な質問をする力」を身につけましょう。
7月 (7/27)	リクエストする力	コーチはクライアント自身で答えを見つけるためのサポートをしますが、時に目標達成のため特定の行動をリクエストする場面もあります。クライアントが目標達成に向けて行動を起こし、より成長するための「リクエストする力」とは？を共に考えましょう。
9月 (9/28)	目標を設定する力	コーチの仕事はクライアントの目標達成に向けて本人を前進させることです。そしてそれを実現する上でもっとも重要なことのひとつは、クライアントと共に目標を設定することです。コーチングにおける効果的な目標設定の方法について学んでいきます。
10月 (10/26)	行動を促す力	目標を達成するためには、クライアントが「行動を起こすこと」「行動を継続すること」「より効果的な行動に変えること」です。これらの「クライアントの行動」を促進するクライアントへの関わり方について学んでいきます。
11月 (11/30)	設立5周年記念セミナー	あなたはどのような力を備え、コーチングはどのように変化しましたか？成長を確認しましょう。